

『レッド・マーズ』

takaidos

メモ

レッド・マーズ 2016-03-28～04-07

キム・スタンリー・ロビンソン

大島豊・訳

火星三部作の第1作。

1993年発行。1998年訳。

★★★★。

描写がきめやかで細かい。

科学や心理学の専門用語や企業名、政治・社会学、民族や宗教など幅広い知識が盛り込まれている。術学的？マキャベリズム(目的のためには手段を選ばない、目的は手段を正当化する)？

「グローバルな商社マンが描いたような小説」

アメリカのグローバル企業、資本主義と民主主義、先進国と発展途上国、欧米の歴史上の人名、日本のことわざ、アラブ社会、ムスリムなど。

地球を発つ前から様々なミッションが計画されていたはずだが、火星到着後それに異を唱える人間が現れるが如何なものか？

アメリカ合衆国のイギリスからの独立のような話を、地球と火星を舞台にリアルに展開する。

「火星は地球資源のひとつ」と考えるUNOMA、超国籍企業体と、「火星は自分たち住民のもの」と考える火星住民の対立。

しかし火星の独立革命に対してなぜいきなり無差別爆撃なのか、が分からない。

著者が外国人なので地球での回想シーンを描くにあたって、地球の地名と火星の地名が出て来る時に回想なのか現実なのか読んでいて迷う時がある。

男女関係、人間関係についてくどい。

会話が回りくどかったり、背景や論理、真意が分かりにくい時がある。

簡潔さユーモアに欠ける。

『蠅の王』のような暗さ、重苦しさがある。

いろいろな人物の視点で話が進行する。

<目次>

上巻

第一部 祭りの夜

第二部 出航

第三部 坩堝

第四部 懐かしき故郷

第五部 歴史への転落

下巻

第五部 歴史への転落(承前)

第六部 テーブルの下の銃

第七部 いつか来た道

第八部 シカタ・ガ・ナイ

解説 金子隆一

<登場人物>

・主人公格★、準主人公格☆

★フランク・チャーマーズ:植民団のアメリカ側がリーダー。Frank Chalmers。米。5ヶ国語。ハネウエル=メッサーシュミット、GE、ボーイング顧問。ジョンの邪魔をする。

★ジョン・ブーン:初の有人火星飛行士。フランクの旧友。John Boone。米。

☆マヤ・トイトヴィナ:植民団のロシア側リーダー。Maya Toitovna。露。野心家。のち火星最初の百人連合組織の代表のひとり。

<冒頭>

老ゼイク・トゥカン:放浪アラブ人の長老。

セリム・エル・ヘイル:若いアラブ人。ムスリム同胞団アハド派。フランクに薬で誘導されてジョン・ブーンを暗殺。事件後死亡。

イヴァナ:ノーベル化学賞。

★ナディア(ナジェジダ)・チェルネシエフスカヤ:技師。コロニーの難問解決係。露。背が小さく丸い。

51歳。ナディアの回廊。

メアリ・ダンケル:女。バクセイン・クレーター付近の新入植地『ターナー井戸』で帯水層を掘り当てて電力を得ようとする。

<医療>

☆ヴラド・タネエフ:男。ノーベル医学賞。58歳。

☆ウルズラ・コール:女。医療。ヴラドとペア。

★ミシェル・デュバル:男。精神科医。あまり積極的にカウンセリングしない。

マリーナ・トカレヴァ:女。火星でミシェルと一時同棲。火星植物学。セコイアの植林。

スペンサー・ジャクソン:男。のち火星最初の百人連合組織の代表のひとり。

サーシャ・エフレーモア:女。ヒロコに嫉妬。

イエーリ・ジュードフ:男。サーシャと別れる。

ジーン:レンガ造り。

<地質学者>

☆アン・クレイボーン:地質学調査の責任者。火星環境温存派(赤党/レッズ)。独り善がり。フランクをマキャベリストと感じる。

サイモン・フレイザー:地質学者。無口。

ジョージ・バーコヴィッツ:

★フィリス・ボイル:女。キリスト教徒。地質学者。フランクを好評価。アメックス、ワンダフル、アームスコア顧問。宇宙エレベーター管理官、鉱山渉外担当。

エドワード・ペリン:地質学者。

☆サックス・ラッセル:物理学者。緑化推進論者(緑党/グリーンズ)。のち惑星緑化計画の科学部門の長に指名される。

<農場>

☆ヒロコ・アイ:生命維持システム設計者。ドーム設計の天才。33歳。日本。火星浄福。人気がある。

イワオ:ヒロコの助手。生命維持システムの閉循環規模の拡大。

ポール:男。

ジーン:

エレン:

ライア・ヒメネス:

エフゲニア・エドヴァルド:女。

アンドレア:

ロジャー:

ボブ:

ターシャ:

コヨーテ:?ヒロコが地球から匿って連れて来た男。神出鬼没。

カセイ:有色人種の若者。ヒロコの一味。

ポーリーン:ジョンのAI携帯端末。

<フォボス>

★アルカディイ・ボグダノフ:訓練担当。のちにフォボスの代表。露。反地球。
アレックス:アルカディイの部下。フォボス。
ドミトリ:男。フォボス。
イリーナ:女。?
ラウル:男。フォボス。
マリーナ:女。フォボス。
サマンサ:女。フォボス。のち火星最初の百人連合組織の代表のひとり。
エドワード:男。フォボス。
タティアナ・ドロヴァ:女。フォボス。のちクレーンの下敷きになって死亡。
ロジャー・カーキンス:男。フォボス。
ジャネット・ブライルヴェン:女。TV記者。フォボス。

<蓬萊>

岡倉悦:立坑責任者。工業都市「蓬萊」500名。
マリアン:ジョンに革命運動の準備について説明。

<明日香>

中山七生:「明日香」モホール。最初の百人の7年後に来た日本人百人のひとり。老人。日本政府からの黄金探索を拒否し土着化。

<アラブ人>

(アル・カヒラ:アラビア語、マレーシア語、インドネシア語で「火星」。
マージャリス:アラビア以外に住むアラブ人。
カヒラン・マージャリス:火星にやって来たアラブ人。
スーフイたち:先回舞踊行者。ムスリムでは異端にして汎神論的。
アラウド・アリ:エジプト西部沿岸地方出身の本物のベドウィン。エジプト政府がこの少数民族を火星に送って来た。)

老ゼイク・トゥカン:放浪アラブ人の長老。ムスリム。
セリム・エル・ヘイル:若いアラブ人。ムスリム同胞団アハド派。フランクに薬で誘導されてジョン・ブーンを暗殺。事件後死亡。
アル=カル:アラブ人。
ユースフ・ハウィ:アラブ人の若者。
ナジク:ゼイクの妻。

<イスラエル人>

<スイス人>

<核反応炉チーム>

<多国籍企業>超国籍企業

アメックス

ワンダフル(のち、宇宙エレベーターを買収)

アームスコー

シェラルコ

ボーイング

ハネウエル=メッサーシュミット

GE

プラクシス(宇宙エレベーター)

ロックウエル

三菱

<UNOMA>

国連火星事業委員会のこと。2044年に火星の都市バロウズに本部が設置される。バロウズは岩窟住居だが地下鉄も走る。

ヘルムート・ブロンスキー:ドイツ人億万長者。元ECの財務大臣。UNOMAの高官。傲慢。

ヤシカ・ムニ:2050年に火星到着。会計検査官。ジョンがアンダーヒルで死体を発見。

<アザニア>

南アフリカ。

<シリア>

ラシド・ニアジ:シリア代表。ムスリム同胞団アハド派の指導者のひとり。

<地球>

ヘイスティングス:ヒューストン管制官の長。

アンディ・ジャンス:超国籍企業体側ロビイスト。

便宜置籍国:シンガポールやソフィア(ブルガリア)など超多国籍企業体が法律の網をかいくぐるために利用する国。

サム・ヒューストン:FBI。

マイケル・チャン:FBI。

インカヴィグリア:アメリカ合衆国大統領。

<あらすじ>

【第一部 祭の夜】～冒頭

火星。

ノクティス・ラビリンスの西、タルシスの台地。ニコシア。

ジョン、フランクの演説。

フランクによる案内。

ドーム内壁はイシディス平原ポリマー。

10年前にアラブ人たちが来て悔りがたい勢力をなす。

アラブ人にとっては政教分離は間違っている。

文盲の女性も火星に来ていた。

ジョン・ブーンは火星最高の実力者で、火星は条約の改定を待っているところ。

スイス人たちが仮面を配る。

火星のタイムスリップ。

午前0時0分0秒～0時0分1秒の間の39分半は時間がなくなる。

アラブ人はジョンがフォボスにモスクを造ることに反対しているという。

フランクはアラブ人セリムに薬を使い、ジョンを暗殺する。

【第二部 出航】

精神科医ミシェル「火星に行けばどうせみんなイカれるから始めからイカれている人間を送ろう」と提案し自分も100人のうちのひとりに入る。

2026年12月21日、第一弾火星植民船アレスは100名の男女と1名の精神科医を乗せて火星に旅立った。平均年齢46歳。男女比50:50。

アメリカ人35人、ロシア人35人。残りは双方の親交国。

南極での訓練を終えての出発だった。

船は回転させて0.38Gを保っていた。

アレス号の外観。

シリンダー×6=トーラス。

トーラス×8を5本のタンクで貫く。先頭からA～Hと割り振られている。

一つのタンクは直径10m×長さ50m。各人の部屋、公園、ラウンジ、風呂もある。

部屋数500。

時速4万キロ。火星まで9ヶ月。

人類最初の火星行き経験者ジョンの参画。

ジョンとフランク微妙な関係。

マヤの恋愛話。

フィリスとジョンのキリスト教信仰についての言い争い。

太陽光フレア。

アルカディイの政治論議。火星シェルターのデザインについて。

ヒロコの農園管理。

$K=I-e/E$

E:システムの消費率
e:不完全な閉鎖システムの比率
I:定数
目標は $K=I-1$

ジョン、地球の政府から自由になったとアルカディイに賛意を示す。
マヤ、密航者？を見つける。。。
ジャネットが地球へのTV録画放送を止めてフィリスが後任に。

火星到着後の仕事分担。
最大の事業:オフィール谷の北に植民地ベース設営。60人。フィリス、メアリら『ヒューストン党』。
①解体したアレスを衛星フォボスにドッキングさせ宇宙ステーションを作る。
②極冠まで踏破してベースキャンプに氷を運ぶ。
③地質学的調査をしながら火星全土を回る。

アルカディイたちはアレスに残ってフォボスに向かい、他は20個のタンクに分かれて乗り込み火星に降下する。
アルカディイ
「21世紀の科学者として存在しながら、同時に19世紀の社会制度の中で生活し、おまけに制度そのものは17世紀のイデオロギーの上に成り立っている」

【第三部 増埒】

ナディアはベースキャンプで蒲鉾型住居造り。
アン、ヘベス谷の調査から戻る。
ヒロコは手伝いを巧みに集めながら農場造り。
マヤはフランクとジョンを相手に恋愛ドラマ。
ナディアは左手を負傷して小指を失う。
アンたち地質学者チームはナディアを誘って、水と鉱物資源を探しながら極冠へ向かう。
一万平方メートルのドーム造り。耐圧、紫外線・宇宙線防御。

火星改造計画。
温存派vs緑化計画派vs農場計画派vsボグダノヴィズム。
アンは火星にいるかもしれない土着生物を保護したかった。
火星火星改造派は赤党(レッズ)。
アンは地球に火星環境保護の自論を録画して独断で送り仲間から反発を受ける。

ヴラド、アルカディイにGEM(遺伝子操作によって生まれた微生物の試作品)を見せる。
アルカディイ、感心する。
サックス、スペンサー、ライア、ロボット工場でサックスの風車発熱器を量産。
熱を発生する風車を大量に地表にばらまくため飛行船を使う。
アルカディイとナディアは最大の飛行船アローヘッド号(長さ120m)に乗って出発する。
途中で投下した風車が壊れると中に遺伝子組換えした「アンダーヒル藻」が入っていたことを知る。
アローヘッド号は砂嵐に巻き込まれる。
アンダーヒルからローバーを送ってもらい2人はそれに乗って帰還。
UNOMAは追加の植民者500名の承認と火星に微生物を散布する緑化計画を承認した。
微生物には増えすぎないように自殺遺伝子も入っている。

【第四部 懐かしき故郷】

ミシェル。
(時が数年経過している?)
マヤに手を焼く。
心理学でメンバーの関係について分析する。
多血質、粘液質、憂鬱質、胆汁質それぞれの組合せと安定性。
胆汁質:マヤ
多血質:アルカディイ、ウルズラ、フィリス、スペンサー、イエーリ、ジョン

粘液質:ナディア、サイモン、ヒロコ、ラッセル
憂鬱質:ミシェル、アン、サックス

見ない顔の人物にヒロコの群れ連れて行かれる。火星浄福(アレオファニー)。
そこには子供たちもいて男女が裸でいる。
ヒロコは集めたシンパを率いて南方に移住して新たな植民地を作る。
ミシェルもいっしょに行くことにする。

【第五部 歴史への転落】

遺伝子工学のふたりの学者(ウルズラとヴラド)が遺伝子配列を操作して長生きできる方法を発見する。

ジョン。64歳。

2047年(火星紀元10年)。

(過去20年余りで火星表面にはいくつものドーム・コロニーが建設されて、地球からも多くの人間が数百、数千人単位で火星に入植して来ていた。)

岡倉悦の案内で工業都市『蓬萊』(500人)の立坑(モホール:モホロピッチ不連続面)の底を視察中、トラックが降って来る。

火星改造の反対派犯行と考える。アンかヒロコか？レッズのだれか。

ラッセル・サックスはヴラドの複合研究施設で遺伝子工学の勉強をしていた。

(オリンポス山北側アケロン地溝の内部)

アンはアルギレ盆地を囲む山脈で調査をしていた。

ジョンはグライダーで移動し、アンに破壊活動について心当たりがないか訊く。

アンはコヨーテ(ウォーカーなしで地表を歩く。ビッグマンを知っている。ヒロコの味方。緑化の敵)の名前を出す。

アンのお腹にはサイモンの子がいた。

ジョンはローバーで北のメラス谷へ移動中、道路建設のスイス人(放浪スイス人)の一団と会う。数は80名ほど。

赤党(レッズ)と緑党(グリーンズ)。

スイス人は赤党でも緑党でもないという。

工学技術と神秘主義をバランスよく取り入れていた。

ジョンはサックスの研究所を訪れる。

サックスは火星の水を増やすのに最適な小惑星があと3年ほど来る、という。

テロの対象になる施設の保安体制を強化する。

研究所、原子炉、モホール、ミラー衛星。

ニルルシュルティス。人口300人。UNOMA職員。鉱夫と技師。

訓練は超国籍企業体シェラルコ。

ブラッドベリポイントの鉱山帯。

ゴールドラッシュ。

ジョン、視察。

アラブ人キャラバンにフランクがいた。

ジョンは久しぶりにフランクと話す。

そこにアケロンに向かうマヤたちが合流。

マヤはジョンにアケロンに早く来るように言って去る。

2048年、ジョンとマヤはアケロンの生体工学研究所でウルズラとヴラドの延命治療を受ける。

ジョンはマヤに結婚しよう、という。

【第五部 歴史への転落(承前)】

ジョンはサックスにも指示されていたが、アケロンでウルズラ、ヴラド、マリーナと火星植物学と生体工学を研究する。

マリーナは植物学を研究しボレアリス平原に高さ200mにおよぶセコイアの木を植林して多階層の森を作ろうと考えていた。20年の計画。

マリーナとヴラドによる「エコ経済理論」「木霊経済理論」。

摂取するキロカロリーと消費するキロカロリーで環境効率を計算する。

地球の北半球は南半球の捕食者。

マリーナたちは地球の幽霊職業(超国籍企業体の幹部クラスの仕事)を実際には無い価値が割り当てられていると非難する。金の価値が歪められてしまっている。

広告、金の仲介、ある種の法律操作、政治の一部。

ヴラドたちは福祉を基準に彼らがどのくらい払い戻しているか計算し、みんなで議論した。

政治体制「暫定的な意思決定装置」よりも重要。

ジョンはタルシス隆起の鉱山(ニューオレンジ自由国/ニュープレトリア)によって、アームスコーに雇われたアザニア人による鉱物資源採掘作業を見学する。

パヴォニス山に行く。

超国籍企業体プレクシス、アメックス、オロコ、三菱の企業幹部が集まり、ヘルムートを補佐してフィリスもいた。

フィリスは火星には様々な鉱物資源があるが、はやく軌道エレベーターを作って効率的に資源を地球に送れるようにしないとアステロイドベルトに負ける、という。

また宇宙エレベーターは火星軌道からロケットを効率的に飛ばすことにも役立つという。

宇宙エレベーターには数百機のエレベーターを付ける予定。

ジョンは宇宙エレベーターが超国籍企業体の私有財産で終わらなければいいかと心配する。

フィリスは火星にいるみんなが利益を受けられる、条約も改定されるという。

ジョンは火星の植民地時代は終わった、地球からの投資やその利益への規制をもっと強化するように条約を改定すべき、という。

「この経済システムはゼロから作られようとしている、おまけに科学的に見て合理的な原則に則っている。この環境収容力はほんのわずかだ。だから持続可能な社会を生み出そうと思えばそのことに注意せざるをえない。ただ原料をここから地球へ運び出すわけにはいかない。植民地時代は終わっていることを忘れるな」と忠告する。

ジョンはローバーで東のヘラスを目指して進む。

中国人たちに会い、日本人に会い、アラブ人たちと会って宗教について語る。

メアリ・ダンケルは、バクセイン・クレーター付近の新入植地『ターナー井戸』で帯水層を掘り当てて電力を得ようとしていた。

早朝、井戸の頭部で爆発事故が起きる。

メアリが爆薬を使って流水を止める。

ジョンは更に東へ進み、ナディアに遭う。

ラーベ・クレーターを覆うドームの建設を監督していた。

火星で開発された長寿治療が地球に漏れ、地球が混乱し始める。

ジョンはヘラス平原を囲むヘレスポントス山脈で砂嵐に遭う。

そして5人の若者がローバーを訪ねて来る。

若者たちは地球から来る移民を遅らせる、あるいは止める、とジョンに言って去る。

ジョンの爪に残った若者の皮膚の遺伝子から、ヒロコの一味であることが分かった。

ジョンはサックスのいるヘラス盆地に到着。

アンとサイモンも3歳になるピーターを連れてやって来た。

そこへ地球からFBIのサム・ヒューストンら10名がやって来る。

サムはジョンの周りで事件が起きていることについて調査を進める。

そんな中、ジョンが外出時に襲われる。

サムの取り調べに対して、ジョンは襲撃されたことを素直に話さない。

AI端末のポーリンへのアクセスも個人情報だからといってアクセスさせない。

ジョンはアルカディイと話すためにフォボスへ上がる。
ジョンが破壊活動について話すとアルカディイは火星独立の地下運動がいくつか存在するとい。
一方でフィリスやフランクなど、超国家企業の顧問をして金をもらっているとも言う。
アルカディイはフィリスはアメックス、ワンダフル、アームスコアの顧問をしていた。
フランクはハネウェル=メッサーシュミット、GE、ボーイングの顧問をしていた。
超国家企業は投資を回収するために火星に次々と人と移民を送り込んで来ていた。

アルカディイのアレンジでジョンはローヴァーで明日香から蓬莱まで行き、地下運動の準備を見る。
しかしジョンは革命ではなく条約の更新で乗り切るべきと案内人のマリアンらを諭す。
そこへまたFBIのサムとチャンがやって来る。

FBIはジョンを疑っていた。

ジョンはアンダーヒルに向かい、ヴァロウズにいるフランクと話す。

フランクはUNOMAは頼りになるところか、地球からどんどん保安責任者を送り込んで来ているという。

アンダーヒルの部屋に戻ろうとすると、またFBIのふたりとすれ違った。

ジョンは自分の部屋にUNOMA会計検査官ヤシカ・ムニの死体を発見する。

地球から来てFBIを名乗っている男たちはジョンを嵌めようとしていた。

ジョンはヘルムートに抗議して彼らを地球に返させる。

ジョンは氷の小惑星到着を祝うためにオリンポス山のクレーター斜面に飛行船やローヴァーで集まり祝賀会を開く。

そこへ長らく見なかったヒロコたちが姿を現わす。

ジョンは破壊活動をしているのは、ヒロコとジョンの遺伝子を持つカセイと呼ばれる若者だと言う。

そして自分たちの精子とヒロコの卵子による子供たちが他にもいるのでは？本人の承諾も得ずして倫理にもとると非難する。

ヒロコはコヨーテという若者も地球から不法乗船させていた。

ヒロコはあの頃みんな子孫のことを考えていなかったと言う。

ジョンは破壊活動をしているのはヒロコの子供たちだが殺されそうになったことについては別のグループに違いないという。

コヨーテも姿を現したが、カセイは小惑星の投下に不満で現れなかった。

パーティーは盛り上がり、ジョンは演説を促され最高潮に達する。

【第六部 テーブルの下の銃】

ジョンが暗殺された。(冒頭)

セリムの犯行は単独のものだとされた。

地球では先進国は産児制限法に対して抗議デモが行われていた。

メキシコ、サンパウロ、ニューデリー、マニラでは長寿治療が受けられないことなどについて抗議デモが行われ炎上していた。

マンハッタンのデモでは「百歳になったら地球から出て行け」というプラカードもあった。

53カ国代表と18人の国連幹部が集まって火星についての条約を決めようとしていた。

火星への移民の割当て。

インドと中国は両国だけで世界人口の40%を抱えているが、この会議では53票のうち2票しかない。

金、人間、土地、銃。

民主主義対資本主義。

超国籍企業体は地元の鉱山会社から上がる利益の大半が自分たちの私有財産になりよう条約を変えろという圧力をかけて来ていた。

中国・インドは移民の比例制(投資に比例した利益を分配する)という案を売り込んでいる。

フランクはインド代表・ハナヴァダと中国代表・孫と展望橋で話をする。

中国・インドから火星へ移民を送ろうとしてもコストがかかり過ぎるので、超国籍企業体に対抗できるように資源と金を提供する。

先進国は人口問題を抱えているので移民の割合が増えるのは大歓迎。

火星への企業による投資や、移民は減る。レッズは喜ぶ。

2057年2月6日—Ls=144、火星紀元15年。

(火星の方は商工会議所に集まるガキどもの集団なので、中国・インドの移民から守ってほしいはず)

アンは火星に一種の国際公園の地位を与える条約を期待していた。

しかしフランク案は超国籍企業体の投資を止め(緑化計画に影響)しかし移民と投資は認める。全員の取り分を確定する。

サックスは惑星緑化計画を早く進めたかったので、超国籍企業体からの投資を削減したくなかった。

一方で超国籍企業体は火星からの利益を期待して引き続き投資を拡大したかった。

アンディは早速アジスアベバに本社を移そうとする(便宜置籍国)。

フランクはアメリカ合衆国火星省長官になる。オフィスはバロウズ。

副長官はスルジンスキ。

(後任はアンディの予定?)

アラブ人のキャラバン。

フランクは、老ゼイク・トゥカンのキャラバンに加わり旅をする。

名目は鉱物資源探索、地質調査、気象調査。

老ゼイクとアラブ人について話す機会を得る。

「人間の仕事は、歴史において神の意志を実現することじゃよ」

「アラブ人は原罪を信じていない」

「人に罪はなく、死は自然なものだと信じている。救世主も必要ないのだ。天国も地獄もなく、報酬と懲罰があるだけだ。そしてそれは現世そのものとして具体化し、どのように生きるかに現れる。その意味ではイスラムはユダヤ教とキリスト教を人間中心的に修正したものだ。

一方、別の見方をすれば、アラブ人たちは自分たちの運命について責任を取ることを常に拒んでいる。

それは常にアラーの意志だ。

この矛盾は理解できない。

だがいま彼らはここにいる。

そしてマージャリスはいつもアラブ文化の中で人懐こい部分を担い、最先端で引っ張ることも多い。

アラブ詩は実際には、ニューヨークやラテン・アメリカで生活していた詩人たち二十世紀に復興したものだ。

ここでも同じことなのかもしれない。

アラブ人たちの歴史観が、ブーンがしんじていたものと相通ずるところが実に多いのは驚くほどでだ。

どちらもそのことはまるで気づいていないと思うが。

他の人びとが実際に何を考えているか、わざわざ探るだけの手間をかける人間はほとんどいない。

ある程度距離が離れてしまえば、対象について言われたことは何でも喜んで受け入れてしまうのだ」

フランクは「イスラムでは、女性は奴隷扱いだ」という。

ゼイクは「男と女は別々の役割を担っていて西側諸国と同じ」という。

ナジク「火星ではいろんな事が変わっています。イスラムの生き方にとって次の段階にある。いま私たちはムスリムのユートピアにいる。ユートピアへの巡礼(ハッジ)です」

ゼイク「巡礼は目的じゃよ」「ムラーたちが、いつもわれわれにそう教えるではないか。であれば、われらはすでにそこに着いていることになる」

アル=カヒラは汎アラブ主義の夢が現実になったものだった。

(アラブ諸国はマージャリスに資金と人材を提供して、全アラブ圏の親族が火星に集まっていた)

火星歴16年。

雪が降る。

ゼイク「なんというアルベドじゃな」「サックスのすることのうち、彼の意図に反することの、なんと多いことよのう」

フランクはアメックスのテントで、超国籍企業体に雇われた者たちがアルカディイの手引きで設備ごと火星のどこかに失踪していることを知る。

「俺たちがここにいるのは、条約が違反だとしている類の契約にいるんだぜ。

ブラジル、グルジア、湾岸諸国、条約に反対票を投じた国は超国籍企業体を招き入れている。便宜置籍国のあいだでは、どこが一番便宜をはかってやれるかの競争になってるんだぜ。」

UNOMA(国連火星事業局)も歓迎で、何千という単位で人間が降りて来ているし、大半が超国籍企業体に雇われている。五年契約で給料をもらい、地球に帰っても大丈夫なように毎日決められた量の運動をし

ている。」

フランクはヴァリスのオフィスに行く。
そこでジャネット、ヴラド、ウルズラに会い、ケンカしたまま別れたマヤも見かける。
シェフィールドでパヴォニス山に宇宙エレベーターの終端を下ろしているところだった。
長さ37,000km、直径の10m。
海の底で釣り糸が下がっているのを見ているかのような光景。

UNOMAと超国籍企業体が次々と人を送り込み、火星は治安が悪くなって来る。

しかしエレベーターを管理しているフィリスに会って移民受け入れについて話す必要があった。
フランクは宇宙エレベーターの車両内部のエレベーターで30階のペントハウスまで上がる。
宇宙エレベーターで小惑星クラークまで上がりフィリスに移民受け入れの制限をするように言うが取り合ってくれない。
フランクはアメリカ大統領に条約違反を盾に超国籍企業体に圧力を加えるように頼んだ。
大統領、条約違反の調査の意図を示す→株価が下がる→エレベーター投資組合「火星での就職を求める熱意が多いため、当分の間需要が供給を上回るだろう」と発表。→運賃を上げる。受入れ居住区、居住地域建設機械ロボットがさらに造られるまでは一時的にせよ移民のテンポを落とさざるをえないだろう。

アメリカ人居住区とロシア居住区に襲撃があり、3人ずつ殺され、双方でストが始まる。
フランクとマヤは説得を行ない成功する。
エレベーターは、ワンダフルに買収された。
ワンダフルの資産はアメリカでなくトリニダードトバゴにあった。
そして彼らは「社会基盤を整備する能力は現在では節度ある移民のペースに追いついている」と主張。
ニコシアはニューヒューストンのような自由市であると宣言。
アルカディイはニコシアにいた。
フランクはニコシア市の支配人アレクサンドル・ザーリンに迎えられた。
ビデオでアルカディイと話す但援助してくれ、と言われる。
マヤはアレクサンダー、ドミトリ、エレーナと話して、市の支配人のオフィス戻った。
そして革命が起きた。

【第七部 いつか来た道】

2061年。
革命の14日目、火星側の小惑星ネメシスが核弾頭で破壊された。
フィリスはアルカディイに降伏するように言う。
アルカディイが市政オフィスに戻ろうとするとニコシアは攻撃を受けてアルカディイの腕にも火がつく。
地球側、火星側双方、無差別攻撃の交戦状態となる。

ナディアはラスヴィッツの市役所に閉じ込められていた。
火星の各ドームは攻撃にさらされていた。
アラブの老女はすぐ降伏すべきという。
サーシャ・エフレーモフが街の北の取水ステーションが爆発したと伝えてくる。
ナディアはサムとアンジェラと出会う、ロボットを使ってパイプを作り流水を止めようとする。
サーシャとイエーリも飛行機を操縦してロボット工場までナディアたちを運ぶ。
一行はペリディアの生き残り環境ステーションで会う。
そこにはアンとサイモンもいた。

バロウズはUNOMAの支配下にあつて、来た者をすべて拘束していた。
上空には飛行機が何機も飛んでいた。
ダミーのドローン多数による攪乱も行われていた。
ナディアは火星の現状回復のために働き続けたかったので、アルカディイからの無線を待ちながらもロボットを遠隔操作して、ドーム回復を助けた。
地球の放送では地球上のニュースはやっているが火星の革命についてはテロップしか流れていなかった。

アンジェラとサムとはサウス地溝で別れて、5人はエリシウム、続いて南方のヘラスに向かった。

5人はフォボスでアルカディイに学んだスティーブら革命派に歓迎される。

しかしスティーブたちは宇宙エレベーターを落下させる。

全長37,000kmのケーブルは燃えながら落下し火星を約二周、被害を拡大させる。

その後、一行はアルカディイの死体も見つける。

西へ向かってカイロでフランクやマヤと合流する。

フランクはUNOMAと通信を繰り返して事態の早期解決を図ろうとしていた。

しかしそこもUNOMAと超国籍企業体が拠点にするフォボスからの攻撃を受ける。

サーシャが死亡。

ナディアがついにアルカディイから預かっていた通信装置でフォボス・ロケットを噴射させ、フォボスを落下させる。

アレックス・ザーリンは宇宙から攻撃しても火星各地で革命が起きているので連中には対処不可能だ、
という言っている途中に通信が途絶する。

カイロの市役所で6人の一行はフランク、マヤ、メアリ・ダンケル、スペンサー・ジャクソンと再会できる。

フランク「火星は国家ではない、世界の資源である」

サックス「だから超国籍企業体にあれほど自由にさせたんだらうね。国連の警察部隊よりも超国籍企業体の治安部隊の方が数が多く来ているように見える」

便宜置籍国は南の持たざる国々からの攻撃で破壊されたが、超国籍企業体はG7へ逃げ込んだ。そこで先進諸国の巨大な軍事力で保護されている。

カイロ向かってきたベドウィンのキャラバンにアレックス、エフゲニア、サマンサが混じっていた。

しかしキャラバンはフォボスから攻撃されて破壊される。

カイロは警察部隊に囲まれ、フランクと市長の対応にも関わらず、ドームに穴を開けられ制圧される。

そこへコヨーテが現れ、一行6人(アン、サイモン、サックス、フランク、マヤ、ナディア)を誘導し、

ミシェルがローヴァー2台で現れて救い出す。

UNOMA、超国籍企業体は、最初の百人(First Hundred)を見つけては組織的に抹殺しているという。すでにドミトリ、イリーナも殺された。

アルカディイのほか、アレックス、エフゲニア・エドヴァルド、サマンサ、イェーリも死んだ。

ローヴァーの一台はカセイ(ヒロコとジョンの受精卵から生まれた)が運転していた。

カイロからイウス、ノクティス・ラビリンサス、メラス谷を抜けてアウレウム・ケイオスを目指す。途中で巨大な帯水層から雪崩でた洪水を目撃する。

【第八部 シカタ・ガ・ナイ】

ピーター・クレイボーン(アンとサイモンの息子)は、宇宙エレベーターに乗っていたが、落下する時に宇宙服を来て静止軌道に脱出。

女2人が乗る宇宙船に拾われ、無事に火星に降下する。

ミシェル、カセイの運転するローヴァーに乗った一行はヒロコたちのもとへ向かう。

しかし途中でローヴァー一台が穴にはまり、洪水でフランクは流されてしまう。

南極冠に向かうと氷のトンネルがあり、氷で覆われたドームが現れた。

そこにはヒロコたちも、ヴラド、ウルズラも、そしてピーターもいた。

ヒロコは一同に「やり直しましょう」という。

<メモ>

火星:核はニッケル鉄で重い。磁場は無い。

◆ベースキャンプ(火星到着後の中心基地)

中央:アンダーヒル、トレーラーパーク(旧居住棟)、蒲鉾型住居

東:核融合発電所、化学研究所

北:宇宙港、高級居住棟

西:貯蔵区域と農場

南:生物医学センター

(遺伝子工学研究所はトレーラーの中、ロボット工場は?)

トランスポンダー:無線中継機。飛行機から受信して自動で返信する。

空気採鉱機:

リストパッド:コンピューターの遠隔操作、通信など。

錬金術師の村:アンダーヒルにある。

スティックニー:Stickney。フォボスの街。脱出速度時速50km。街から飛び出してしまうようにネットが張ってある。

セメノフ:フォボスのドーム・クレーター。

レヴェイキン:フォボスのドーム・クレーター。

ロシェの限界:フォボスを減速させて火星に落とす。

アモール型小惑星:90%が氷。

ウォーカー:火星用外出服。宇宙服と違って与圧はされていない。

ローヴァー:陸上移動に使われる車。

グライダー:

飛行船:

ロボット:建築ロボット。ロボットによって作られた巨大ロボット。

軽量飛行機:

発熱風車:サックスの計画により火星各地に大量ばら撒かれる。

核融合炉:チェルノブイリと呼ばれる。

GEM:遺伝子操作によって生まれた微生物。

軌道エレベーター:火星赤道付近のパヴォニス山に端を繋ぐ。高度17,049kmに静止点。ケーブル長は37,000km。直径10m。衛星フォボスとデイモスはケーブルを揺らして避ける。

ヴィリディタス=緑化力。

ピタゴラス:ミラステーション。

メソコスモス:中間宇宙。選択透過性の鏡で覆われた、埋込式の火星環境装置や屋内栽培室。

オメガンドルフ:興奮剤?

リッコーバー原子炉

ウェスティングハウス製増殖炉(ウェスティングハウス・エレクトリックか。実際には1997年にCBSコーポレーションと名前を変え1999年にバイアコムに買収されて消滅した)

核融合炉:ボレアリス溪谷に設置。

ロックウェル製巨大加湿器:200メガワット。単分子蒸発装置とジェットタービンエンジンで1日に100万リットルの水素と酸素を大気に加える。

ヒドラジン発電機:ヒドラジンは引火性があり航空機やロケットの燃料など広く使われる。

マンガラヴィド:テレビでアマチュア・ビデオを毎晩6時間放送している。

ノーヴィ・ミール:ジョン・ブーンが初めて火星に来た時の宇宙船。

アレオゲル材:ドームを覆うのに使う強化された桁材。

超巨大ダンプ・トラック:ユートピア・プラニティア・マシーンス製。ロボットが作ったロボット。1ブロックほどの大きさ。

メサ:周囲が急斜面で頂上が平らな地形。メサはビュート (butte) よりも規模が大きくプラトー (plateau) よりも小さい。cf. 峡谷、クレーター。

確率共鳴:

放射線量。

地球の磁気圏の保護下にある周回軌道上では年間35REM、地上では5分の1REM。

ミネソタ多面人格検査改訂版(RMMPI)

利己的遺伝子の理論

「知性は自己複製をうまくやるための道具に過ぎない」

放浪スイス人:国外にあってジプシー生活。

故郷のスイス人:今でも針鼠のように完全武装し、現金を持ち込む人間ならば相手が誰であろうと喜んで金庫番になりたがる。今でも国連には加盟していない。
世界の一部でありながら、そこから一步はずれる能力。世界を利用するが、近づけさせない能力。完全武装しながら、決して戦争を引き起こさない能力。
→ジョンはそれを火星に当てはめたいと考える。

超国籍企業体世界秩序=反エコロジー

アルペド:

地中海クラブ:地中海沿岸を拠点に世界各国にバカンス村を経営する世界最大規模の旅行クラブ企業。
1950年にスペイン・マジョルカ島に第1号がつくられて以来、2001年までに、世界36カ国に、120のバカンス村を所有している。

アラブ人の心休まることば。

水蓮、川、森、雲雀、ジャスミン。

タリブ:探求者

タリクワート:探求者の道

ナフス:ひとの影